

平成30年度

「運営に関する計画」

大阪市立大和川中学校

平成30年4月

大阪市立 大和川中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

数年前から学校秩序が乱れ始め、5年前には大きな学校崩壊を経験した。学校再建として大阪市教育振興計画の第1ステージ（平成25年度から28年度）で、「秩序構築」をテーマに「時間を作る、ルールを守る心の育成」を進めた。また、27年度より1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ「中学校での集団生活について」の指導を始めた。

その結果、生徒の規範意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができた。取り組みから3カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと変わることができた。

生徒アンケートの「時間を守る（94%）」「ルール・マナーを守る（95%）」と指導が確りと浸透してきた。しかし、学習面についてはわかる授業の創造に取り組んできたが生徒アンケートの「授業はわかりやすい（77%）」は、昨年度68%から77%と改善はみられるがまだまだ低い。また、学習習慣においては、「家庭で予習（47%）、復習をしない（53%）」と家庭での学習習慣のない生徒が多く、基礎学力の向上までには、今一歩及んでいない。29年度から取り組む第2ステージ（平成29年度から平成32年度）では、学校が安全で安心な集団生活の最高の学びの場として取り組み、教育ICTを活用した生徒の将来を見据えたキャリア教育の充実を図る。

「全国学力・学習状況調査」の結果より（29年度）**○結果の概要**

国語Aでは、「読むこと、読む能力」 また、選択式の問題は高い数値を示すが、書く能力は弱い。国語Bでは、問題形式の短答式の正答率は全国を上回るが、言語についての知識・理解・技能は低い値を示す。数学では、図形や確率の基本計算の正答率は全国を上回る問題もある。しかし、関数領域は低い値を示す。数学Bでは、全国の正答率より5ポイント程度低い値を示す。特に、事象を式の意味に即して説明する出題は弱い。

○分析から見えてきた課題

〔国語〕 「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は大阪市平均正答率を上回る。伝えたいことを相手に分かりやすく書く指導や文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる工夫などの学習内容や発表する表現活動の充実を図る。〔数学〕 「図形と確率」は基本計算の正解率は全国平均正答率を上回っている項目もあるが、計算力は日常の授業で繰り返し学習し、定着を図る。しかし、「数と式」「関数」領域は低い数値を示す。特に、事象を式の意味に即して説明する出題は弱い。

資料を用いて傾向を捉え問題を解決する力や数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動など個別の学習支援の工夫が必要である。

○質問紙調査より

- ・本校では、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦していますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」においては、学校での生活における自分自身と学校に対する肯定感が過去5年間の経年調査では顕著に向上している。また、「学校の規則はしっかりと守っていると感じている」生徒は非常に高い数値である。
- ・体育大会や文化発表会を中心とした学校・学年行事でお互いを思いやり、強調することを身に着けることとそのためのコミュニケーション能力向上の結果と思われる。また補修学習や習熟度教育を通じて、わからないことがわかつてきた喜びの結果と思われる。

○今後の取組

教育活動全体を通して、「集団行動は他者を意識して生活をする」を目標として取り組んだ。その結果、人にやさしく、仲間のことを考える活動ができるようになった。学習に関しては、特に結果の意著しく良くない数学では今年度から毎週補修日程を廊下に掲示し、放課後の時間を使って、復習と質問の時間を確保する。今後も継続指導を行い何とか良い結果に結び付けていきたい。家庭学習においては、復習・予習を行う生徒が少なく、学習習慣の定着に必要な生徒への、個別の課題提示やきめ細かい指導方法の工夫および、入り込み指導や習熟度別学習による支援を行う。また、読書については、昨年度に図書館の環境整備を整え、昼休み放課後の開放時間を設け読書環境の改善に取り組む。授業では、教員が学習の「ねらい、課題、振り返り」の提示や話し合い等授業内容の工夫を進める。今後、教員相互授業参観を活用し、更なる授業力（ＩＣＴ活用授業）の向上を図る。

校長戦略予算を活用し、3年生全員に英語検定を実施。また、1、2年生全員に漢字検定を行い、自尊感情を高め学習習慣の確立を進める

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シートより(29年度)

○結果の概要

男女ともに、過年度より課題であった柔軟性については、今回も大阪市・全国とともに下回ったが、全身持久力については20mシャトルランにおいて大阪市・全国とともに下回った。立ち幅跳びの値や踏力が大阪市・全国の値が下回ったことにより、瞬発力＝パワーが昨年度より劣っていることが分かった。今年度は、男子は、握力、反復横跳び、20mシャトルラン、の項目で、大阪市と全国の平均値を上回っている。女子は、上体起こし、50m走、握力、20mシャトルラン、の項目で大阪市と全国の平均値を上回っている。

○成果と今後取り組むべき課題

- ・学校生活全般において、目的意識を持ち取り組む素地づくりを保健体育の授業で取り組んでいる。その成果として、何事においても真摯に取り組む姿勢が身に付き始めたことにより、基礎体力の向上につながったと思われる。
- ・全身持久力を高めるため、身体づくり運動でサーキットトレーニング・インターバルを取り入れたり、無理なく長距離を走れるよう自分に合ったランニングペースで走る機会を増やした。このように運動のスキルやドリルに真摯に取り組ませることはもちろん、他者の迄も失敗やできない自分を安心してさらけ出せることができる集団環境を整えた。
- ・生涯体育として、集団でスポーツを楽しむ授業づくりと、健康管理など食育と関連した教育活動の充実を図る。

運営の計画 最終反省より(29年度)

【視点 学力向上】

○進捗状況の結果と分析

- ・国語・数学・英語の3教科では、習熟度別少人数学習の定着や放課後補修授業を導入などきめ細かな指導に尽力した。国語科では、漢字検定（1、2年）を実施し、学習意欲の向上に努めた。
- ・教員の相互参観や研究・公開授業は充実しており、教員相互の授業力向上につながった。
- ・「発表や話し合いなどを取り入れた授業を積極的に行っている」の項目では、93%で目標達成(60%)を大きく上回った。しかし、学習習慣においては、「家庭で復習をしない 31.3% (27年度 34.1%) 「予習をしない 43.5% (27年度 37.9%) など、改善もみられるがまだまだ高い。家庭学習習慣への啓発および学習への意欲向上を図る必要がある。

○次年度への改善点

- ・学習習慣は（家庭学習）は、個人差があり、2極分化がさらに進んでいる。家庭学習を含め自学自習への学習支援を具体化させる。（国語、数学、英語、理科 習熟度授業の充実等）
- ・授業内容の更なる改善を進める。ＩＣＴを活用した授業および校内体制の整備（研究授業、授業内容の創造）
- ・読書文化の継承と更なる推進（図書館、ブックトラックの活用、図書紹介、読書感想）
- ・習熟度レベル上位層の更なる伸長、下位層の引き上げ ⇒ 教育内容検討委員会

【視点 道徳心・社会性の育成】

○進捗状況の結果と分析

1 2月実施の生徒・保護者アンケートより生徒：「学校のルールやマナーを守っている 95%」「時間を守って学校生活を送っている 94%」「楽しく充実した学校生活を送っている 88%」である。保護者：「お子さんは、楽しく充実した学校生活を送っている 84%」である。アンケート結果から、学校の学習環境が安定し、基本的な生活習慣の確立に向けての取組に成果が表れている。

○次年度改善点

生徒の自尊感情の高まりや地域との連携等、数値（ペーパーテスト）では測れない心の成長や人間としての振る舞い等など学校行事・学年行事・道徳の授業等で年間計画を立て進める。

【視点 健康・体力の保持増進】

○進捗状況の結果と分析

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男子は体力合計点で大阪市・全国を超した。女子は大阪市を超し、全国に僅差の数値となっている。

○次年度改善点

今後も、全ての教科・領域等の教育活動を通じて、あたりまえのことをあたりまえに取り組むことのできる態度を育成する。給食指導を通じて、食育を推進する。また、保護者に対し食育への意識変革及び基本的生活習慣の定着など家庭教育の更なる啓発を図る。

中期目標

【子供が安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

○平成32年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持ってますか。」の項目について、「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。

○平成32年度の校内アンケートにおいて「防災・減災・安全に関する教育を実施し、安全確保や事故防止に努めている」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」と答える保護者の割合を29年度調査より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成32年度の、全国・学力学習状況調査「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、9.0%以下にする。

○平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成29年度より3ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成30年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- 平成30年度の全国学力状況調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 平成30年度校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校にある生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成30年度の全国・学力状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。
- 平成30年度の校内アンケートにおいて「防災・減災・安全に関する教育を実施し、安全確保や事故防止に努めている」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」答える保護者の割合を平成29年度調査より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度よりも向上させる
- 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも2ポイント減少させる。
- 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均を2割以上上回る生徒の割合を同一校の母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも2ポイント増加させる。
- 平成30年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる
- 平成30年度の全国体力、運動習慣調査において、特に課題である50mの記録を、前年度より2ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 平成30年度の、全国・学力学習状況調査「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成29年度より減少させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成29年度より向上させる。

3、本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

大阪市立大和川中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなか

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>【全市共通目標（小・中学校）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 30 年度末校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 %以上にする。 ○平成 30 年度の全国学力状況調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90 %以上にする。 ○平成 30 年度校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○平成 30 年度末の校内調査において。新たに不登校にある生徒の割合を前年度より減少させる <p>【学校園の年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 30 年度の全国・学力状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる。 ○平成 30 年度の校内アンケートにおいて「防災・減災・安全に関する教育を実施し、安全確保や事故防止に努めている」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」答える保護者の割合を平成 29 年度調査より向上させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>【取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行い、生徒理解を深める。</p>	

指標：いじめアンケートを年3回実施する。生徒教育相談を2回実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートの検証。平成30年度の年度末調査の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けて対応している割合を100%にする。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】

全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え方行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。インクルーシブル教育を進める。

指標：学校アンケート「人の役に立とうと思いながら行動できる」90%以上にする「学校や地域であいさつをしている」93%以上にする。道徳の時間、読み物資料を活用した授業等を行い、年次研修教員を中心に公開授業を行う。支援学級在籍生徒を含む支援を要する生徒の状況把握を行う。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

子ども相談センター、警察機関、区役所(地域子育て支援)やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携や相談。読書文化の継承と更なる推進(図書館、ブックトラックの活用、図書紹介、読書感想)

指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。校内での暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力調査「読書は好きですか」昨年度を上回る。

取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団作りを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。

指標：全国学力質問紙「学校に行くのが楽しいですか」29年度より向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。ケース会議 不登校対策委員会(年3回)

取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】

社会体験(キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等)実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。

指標：職業講話(1年) 職業体験(2年) 高校出前授業体験を2回実施(3年)。ボランティア清掃(各学年年1回)を実施する。

取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業(講話、説明、地域防災訓練への参加)「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学校保健委員会での防災学習の継続。

指標：火災想定の避難訓練(年1回) 地震想定の避難訓練(年1回) 救急救命法(AEDを含む)の講話(年1回)を実施する。各学年、年間2時間以上実施する。住吉区地域防災訓練に全校生徒の参加。小中連携を含めた地域避難訓練

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式例 2)

大阪市立大和川中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなか	
年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
<p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度より向上させる。 ○ 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも 2 ポイント減少させる。 ○ 平成 30 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率が市平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一校の母集団で比較し、いずれの学年も前年度よりも 2 ポイント増加させる。 ○ 平成 30 年度末校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成 30 年度の全国体力、運動習慣調査において、特に課題である柔軟性立位体前屈、立ち幅跳びの記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度の、全国・学力学習状況調査「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成 29 年度より減少させる。 ○ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 29 年度より向上させる。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】</p> <p>【自主学習習慣の確立】 放課後や長期休業中の生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p> <p>指標：定期テスト前学年別放課後学習会。教員による学習サポート 年間各学年 15 回以上実施。</p> <p>取組内容② 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】</p> <p>国語・数学・英語・理科における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：授業前・授業後の生徒アンケートによる検証</p> <p>校内アンケート・「授業はわかりやすい」 71.0 ⇒ 80.0 ↑ ・「毎日の家庭学習が習慣になっている」 41.0 ⇒ 50.0 ↑</p>	

取組内容③【 施策6 国際社会において生き抜く力の育成 】

英語科の公開授業の実施。小中連携による英語教育の推進。

指標：中学校卒業段階で英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を29年度より向上させる。小学校への出前授業を年5回行う

取組内容④【 施策6 国際社会において生き抜く力の育成 】

ICTを活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校）

指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2年生）における正答率を大阪市平均に近づける。

取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】

各教科指導における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。（習熟度レベル上位層の更なる向上および、中位下位層の引き上げにむけた指導体制を進める。）

指標：全国学力学習状況調査「授業では、生徒間で話し合う活動をよく行ったと思いますか。」29年度より向上させる。61.1P（全国77.8P）「授業アンケート」で「授業がわかりやすい」「理解を深めることができた」と答える生徒の割合を向上させる。

取組内容⑥【 施策7 健康や体力増進する力の育成 】

平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計点を29年度より向上させる。また、男女共に立位体前屈、立ち幅跳びを2ポイント向上させる。

指標：体育の授業で（T T）グループ学習を行う。また、個別の支援学習でタブレットによる動画での視覚的効果で動作確認をする。

取組内容⑦【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】

教科内での学習支援および家庭学習定着にむけた生徒の意識向上。

保護者への家庭学習習慣への啓発。

指標：各教科の課題学習プリントを活用し予習復習の徹底。教科・学年の連携による学習サポート体制の確立。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点